は 資料 2021.6

ハマスとの紛争の余波
一般市民の間に残ったしこりの中にも希望

シオンとの架け橋現地スタッフ

イスラエルと、パレスチナ自治区ガザ地区を実効支配するハマスとの紛争（イスラエル側では「壁の守護者作戦」）は11日間続いた後、5月21日停戦に入りました。現在では、イスラエルは外見上、平時に戻っています。

しかし、国内ユダヤ系市民とアラブ系市民の間で発生した大規模な衝突が深い傷を残しています。ロッドやヤッフォのみならず、共存のシンボルだったアッコやハイファでも、焼き討ちや暴動が発生しました。これだけの衝突は独立戦争以来で、長年エルサレムでアラブ人と共存してきた友人は、「共存を再構築できたとしても、十年単位の時間が掛かるだろう」と言っています。

✺以前から個人的交流が欠落

実際の衝突に関わったのは、ハマス支持のイスラム教過激派と、民族浄化に近い信念を持つユダヤ教過激派だけで、大多数が平和的な共存を望んでいます。しかし関係回復の最も大きな障害は個人的な関係の欠落です。

ユダヤ系市民は、「職場にアラブ系やパレスチナ人が居るし、買い物に行けばレジもアラブ人だ」と言います。しかし、「では、彼らとの個人的なエピソードは？」と問うと大部分が答えに詰まるのです。この、近いようで厚い「ガラスの壁」を隔てているのが、ユダヤ人とアラブ人の距離感なのです。

ムサラハの女性集会

✺ユダヤ、アラブ系市民の和解の働き「ムサラハ」

イエスに従う人々 →

そんななか、この「壁」を壊そうとするビリーバーによる、「ムサラハ」という働きがあります。アラビア語で和解を意味し、1990年にパレスチナ人クリスチャンとメシアニック・ジューによって立ち上げられました。当初はメシアニック・ジューとアラブ（パレスチナ）人クリスチャンの和解と一致のみが目的でしたが現在、ノンビリーバーも含めたパレスチナ人と、イスラエルのユダヤ人の和解も目指しています。その女性プログラムのマネージャー、ヘドバ・ハイモフさんにお話を伺いました。

ハイモフさんが行う女性向けプログラムは週末ごとに6回ワンセットで行われ、ユダヤ系市民とアラブ系市民や、西岸地区のパレスチナ人が一緒に集まります。はじめは双方のビリーバーだけでしたが、パレスチナ人との対話や関係構築を希望するユダヤ系の一般人や、同様の希望を持つイスラム教徒の参加が急増し、ノンビリーバーの方が多いという状況になっています。

✺互いの歴史観に耳を傾けて理解する

互いに信頼関係を築きながら、相手の持つ考えや歴史観を学び、紛争やアイデンティティといったテーマを話し合います。ユダヤ人はアブラハム・聖書時代からホロコーストやシオニズムについて語り、パレスチナ人は1948年からのパレスチナ側からの歴史やアイデンティティを紹介し、相手への理解を深めるのです。

✺ユダヤの側の間違いや歪んだ認識もある

「相手の歴史観に賛同する必要はありませんが、対立関係のなかで事実と信じてきた歴史観は歪んだところもあると理解しなければなりません。ユダヤ人側も間違いはあります。ユダヤ系市民は一般に、離散中（イスラエル建国まで）この地が真空状態だったと捉えますが、これは間違いで正すべきなのです。こうして相手と自分を理解することが、愛による真の和解につながるのです」とハイモフさん。

軍事作戦中はプログラムを延期していましたが、6月末から女性プログラムが再開するようで、紛争や対立激化の悪影響はないとのことでした。紛争中は、「周囲で敵意が沸き起こり、増幅し、その大きな波と戦うのは簡単ではありませんでした。ムサラハの参加者もSNS上に『相手方』の友人もいるため、どんな投稿をするのか葛藤やチャレンジがあったと思います。しかし愛のみが暴力という闇に勝つという私たちの信仰は揺るぎませんでした」。

✺政治的二極化の難しい状況

ここ数年、イスラエルは政治的に二極化し、敵意や憎悪が広がり、それがムサラハの活動にも影響しています。神学的、民族的にあまりにも隔たりがあるため、メンバーにムサラハと関わることを禁じるコングリゲーションもあります。

「それは悲しいことです。私たちは聖書とキリストに基づく和解を目指していると明言しており、ノンビリーバーの参加者もよく理解しています。ユダヤ人とパレスチナ人がキリストを通じて和解しようとしている姿は、彼らへの大きな証しや伝道になっています」とハイモフさん。多くの人々が「共存」を再構築したいが方法が分からない。そんななか、これから神がムサラハに与えられる役割は大きいかも知れません。

✺我が子を「ムサラハ」のキャンプに参加させる

ネティブヤのメンバーで我が子をムサラハのユースキャンプに参加させ、自身も女性プログラムに参加するタチアナ・南雲さんは、「ムサラハの考え全てに賛同している訳ではない」と前置きしたうえで、このように語ってくれました。

「実際に人としてつながった友人が居なければ、私たちのパレスチナ人像はニュースで目にするハマスや過激派に侵されます。しかしムサラハでパレスチナ人の姉妹と触れると、パレスチナ人をイメージする時にまず彼女たちの顔が浮かびます。これは大きな財産です。子どもたちのパレスチナ人との初めての出会いが、軍服と銃を持ってのものになって欲しくないので、子どもたちにも参加させています」

ユダヤ人とアラブ（パレスチナ）人の共存は大きなテーマです。双方のノンビリーバーが福音に導かれ、双方のビリーバーが聖書に基づいた兄弟としての関係を構築できるよう日本の皆さまにも祈っていただければと思います。

MUSALAHA

イエスキストの教えにならい、イスラエル人とパレスチナ人の和解のために働く非暴力抵抗運動 1990 設立